

学習会のお知らせ

アスベストはこわい！

その改築・解体工事は本当に安心？ あなたの周りにも危険が…

アスベストは、昭和40年代以降の経済高度成長期に、ビルの耐火被覆、吸音、断熱用のための吹き付け材として大量に使用されてきました。いま、区内のあちこちでビルの解体工事が行われています。シビックセンター前の春日後楽園駅前市街地再開発においてもアスベストを含む多くの建物の解体が行われています。

住民と行政が注意しなくてはならないポイントを、アスベスト対策の第一人者でもあり、医師でもある名取先生に伺います。

講師 名取雄司先生（中皮腫・じん肺：アスベストセンター所長）

日時 3月19日（土）午後1時～3時

会場 文京シビックセンター 3階 会議室3A

参加費 無料（直接会場にお越しください）

★アスベストは一たん吸い込むと肺の奥深くまで入り、長期に体内にとどまり、刺激を与え続けることにより中皮腫や肺がんなどの病気を引き起こすと考えられています。

11年前、尼崎市の旧工場周辺で死亡者が出て、社会問題になり、全国的に対策がとられたはずでしたが、重大な飛散事故が今も起きています。

★アスベストを飛散させることなく、除去工事が行われるためには、きちんとした文京区の指導と私たち住民の監視が必要です。

★住民と行政が注意しなくてはならないポイントを、アスベスト対策の第一人者でもあり、医師でもある名取先生にうかがいます。